

## 『わくわく、いきいき、どんどん』

文責：柴田 俊一

～子どもが主人公の学校づくり～

## 今年度の校内研究をふり返って

令和3年度の校内研究も、いよいよまとめの時期になってきました。研究主題を「読み解く力の視点を踏まえた『主体的・対話的で深い学び』につながる授業づくりの推進 ～家庭学習を充実させた高月中学校スタンダードづくり～」とし、主に授業改善と家庭学習の充実を目的として取り組んできました。最終目的はもちろん生徒たちの「学力向上」で、これまで、「授業づくり部会」と「家庭学習部会」に分かれて取り組んできました。

「授業づくり」では、ピクトグラムによる活動目的の明確化、ICTの効果的な活用、学びあい活動の充実などを取組の柱として、授業研究会等を実施してきました。今年度から教科書が変わる中、教材研究に力を入れていただきました。その結果、先生方一人ひとりのユニークな発想で魅力的な授業をたくさん見せていただきました。そこには先生方の「授業のセンス」を感じました。年度当初に比べて、授業の質が変わってきたと実感しています。先生方のご努力の賜物だと思っています。「教師は授業で勝負する」と言いますが、あくなき研究心をもち、自身の授業力を磨いていくことは我々の永遠のテーマだと思います。教育公務員特例法22条では、「その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない。」とありますが、やはりいくつになっても「学び続ける」姿勢をもつことが大切で、それこそがプロの教師、本物の教師であると言えます。ニーチェの残した言葉に、「脱皮できない蛇は滅びる」とあります。「ギガスクール」構想が始まり、「令和の日本型学校教育」と呼ばれるように、教育改革の大きなうねりの中で、その環境の変化に対応できない者は、ニーチェの語った「脱皮できない蛇」同様に明日はないのかもしれない。生徒たちの「わかる喜び」「学ぶ喜び」を求めて、日々研究し、工夫していける教師でありたいと思います。

「家庭学習」では、家庭学習の質的・量的向上を目指して、「高月中家庭学習スタンダード」を作成いただきました。高月中の先生方の創意工夫を凝らし、創りあげた作品です。他校にも紹介できるよいものができたと思います。これまで、家庭学習は学校管理下外の領域として、なかなか踏み込めないエリアでした。そこを変えていこうというこの試みはチャレンジングで、簡単にはいかないと思います。しかし、そこであきらめれば「失敗」となります。「成功の秘訣は成功するまでやり続けることで、失敗とは成功するまでやり続けないことだ」とは、かの有名なナショナル(現パナソニック)の創業者松下幸之助さんの残した言葉ですが、そこを「突破」できる工夫が必要です。「仏作って魂入れず」ということわざがあります。先ほど、このスタンダードを「作品」と申しあげましたが、単なる「作品」で終わらせず、実効性のあるツール(道具)とするためにも、そこに「魂」を注ぎ込んでいかなければならないと考えています。「魂」とは何か。それは、生徒たちの「意識」であり、もっと言えば我々教師の「意識」であると思います。真に御利益がもたらされる「仏」となるように、生徒たちへの呼びかけ・働きかけ、保護者への働きかけ、生徒たちの取組状況の確認と励まし、取組の評価と改善を継続的に進めていく必要があります。特に、生徒たちの取組状況やがんばりの把握は最も大切で、頑張っている姿を評価し、成果を皆に「見える」形で広めていくことが大切だと考えています。そうした意味での何か「仕かけ」が必要だと思います。その「仕かけ」を見つけるためには、皆が知恵を出し合う必要があります。今後、家庭学習の時間等のデータは継続的にとっていく必要があると思いますが、一人ひとりの取組が今よりもよくなっていくことを目指して、この研究を進めていきたいと思っています。

研究は、一朝一夕で成しえるものではありません。今年度の取り組みの成果と課題を明確にし、我々職員がともに共有し、目的意識をもち、そしてチームワークを発揮しながら、(ちょうどスマホのOSが不具合を調整しアップデートしていくように)次年度以降もこの研究をさらにバージョンアップした形で進めていきたいと考えています。先生方のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。